

2024年1月25日

「第33回 佐賀銀行文化財団新人賞」の決定について

一般財団法人 佐賀銀行文化財団（理事長 坂井 秀明）は、「第33回 佐賀銀行文化財団新人賞」を下記の2名の方に贈呈することに決定いたしました。

受賞者、内容等は下記のとおりです。



記

1. 受賞者 : 青木 昌勝 様 45歳 陶芸
米村 太一 様 38歳 洋画

(五十音順)

2. 内容 : 正賞 表彰盾
副賞 賞金100万円

3. 贈呈式 : 日時 2024年2月9日(金) 午後1時00分
場所 佐賀銀行本店8階大会議室

以上

《本件に関するお問い合わせ先》
一般財団法人 佐賀銀行文化財団（佐賀銀行本店内）
担当：志佐・田中
TEL 0952(25)1620
<https://www.sagabank.co.jp>

あおき まさかつ
青木 昌勝 様

年齢：45歳 出身：伊万里市 現在：伊万里市在住
ジャンル：陶芸

1. 経歴

1978年 伊万里市に生まれる
2002年 伊万里市大川内の窯元に入窯
伊万里・有田焼伝統産業会館(後継者育成)にて中村清六氏および村島雪山氏より
5年ずつロクロ指導を受ける。
2015年 1級陶磁器製造技能士認定(手ろくろ・国家資格)取得
2017年 日本伝統工芸展入選(初入選)
2018年 独立 青木陶房開窯
現在 日本工芸会正会員 佐賀県陶芸協会会員

2. 主な受賞歴

2015年
九州山口陶磁展 1部日刊工業新聞社賞
九州山口陶磁展 2部佐賀県知事賞
2016年
有田国際陶磁展(旧九州山口陶磁展) 2部 西日本新聞社賞
2017年
有田国際陶磁展 2部 佐賀県知事賞
西部伝統工芸展 奨励賞
佐賀県美術展覧会 西日本新聞社賞
日本伝統工芸展 入選
2018年
有田国際陶磁展 日本経済新聞社賞
西部伝統工芸展 九州朝日放送賞
日本伝統工芸展 入選(宮内庁お買い上げ)
佐賀県美術展覧会 佐賀県芸術文化協会賞
2019年
有田国際陶磁展 1部佐賀県商工会議所連合会賞
有田国際陶磁展 2部 陶業時報社賞
佐賀県美術展覧会 佐賀新聞社賞
2020年
佐賀県美術展覧会 70回記念特別賞
2021年
有田国際陶磁展 2部佐賀県陶磁器商業協同組合賞
西部伝統工芸展 KAB 熊本朝日放送賞
佐賀県美術展覧会 佐賀新聞社賞

2022年

有田国際陶磁展 2部 経済産業大臣賞

西部伝統工芸展 朝日新聞社大賞

2023年

日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 九州・沖縄展 審査員特別賞

3. 推薦理由

氷青磁という独特の新しい質感をもつ青磁で近年受賞がめざましい陶芸家。伊万里の大川内山という鍋島藩窯がかつてあった窯業地で、窯元に生を受け、伝統的なろくろの技術を確実にしたうえで陶芸作品を生み出している。

氷青磁だけでなく、緑色の正統的な青磁も手掛けるが、冷たさを感じる独特の青い青磁を作品として発表し、注目されている。名称のとおり、氷（氷河）からイメージされる色と光沢を表現するために、表面に亀裂を入れるなど、繊細で技巧的な工夫がされている。

ろくろの技術は確かであり、産業陶器（複数個製作された組物）で、さまざまな皿、鉢類の受賞歴があることから定評がある。佐賀県では層の厚い伝統系の陶芸家の中でも、青磁というジャンルで注目され、可能性を秘める陶芸家として今後更なる活躍が期待され、佐賀銀行文化財団新人賞に十分値するところだ。

4. 青木 昌勝 様



(制作風景)





《氷青磁鉢》

2018年 第115回 有田国際陶磁展 日本経済新聞社賞



《氷青磁鉢》

2020年 第67回 日本伝統工芸展



《氷青磁鉢》

2022年 第118回 第2部 一位 経済産業大臣賞



《氷青磁鉢》

2022年 第56回西部伝統工芸展 1位 朝日新聞社大賞



《水青磁鉢》

2023年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 九州・沖縄展 審査員特別賞

よねむら たいち
米村 太一 様

年齢：38歳 出身：熊本県熊本市 現在：伊万里市在住
ジャンル：洋画

1. 経歴

- 1985年 熊本県熊本市生まれ
- 2010年 佐賀大学大学院教育学研究科終了
- 2017年 佐賀大学芸術地域デザイン学部特任助教（西洋画）就任
- 2021年 佐賀県立伊万里特別支援学校で教諭として勤務～現在に至る

2. 主な受賞歴

- 2008年「第20回しんわ美術展」奨励賞受賞
- 2012年 白日会会友に推挙
- 2023年「第7回青木繁記念大賞ビエンナーレ」大賞受賞

出品・個展

- 2009年 白日会出品
- 2013年「アートフェア東京」出品、個展（池袋東武・東京）
- 2019年「2月のサロン」（画廊憩ひ・佐賀市）出品、個展（Gallery Seek・東京）
- 2020年 個展「-交錯-」（Gallery Seek・東京）、「Attirant VIII」（瀧川画廊・東京）出品
- 2021年 個展「-MEISAI-」（Gallery Seek・東京）
- 2022年「アートフェアアジア福岡2022」（ホテルオークラ福岡）出品、
個展「染まりゆくものたち」（Gallery Seek・東京）

3. 推薦理由

大学の学部及び大学院の4年間、洋画家小木曾誠氏のもとで油彩画を学び、在学中に白日会展に出品し初選入選を果たすなど、その写実的表現は早くから高く評価されています。以降、佐賀・東京で活発に油彩画を発表し、シンガポールや中国等海外でも作品を発表しています。作品は油彩画の古典的技法による写実的な描写を基本とし、初期は柔らかなタッチによる抒情的画面が多いが、単なる写生に留まらず、その主題、モチーフに現代性を含ませ、実験的な画風を試みています。ことに2012年の個展で発表され、現在も制作を続けている「MEISAI」（迷彩）シリーズは、作家の新境地を示すものとして特筆され、ここでは、自身の絵画表現、あるいは写実―細密描写の可能性に果敢に挑み、未来を築いていこうとしています。「MEISAI」シリーズにおいて、自身の描画技法、そして作家性は飛躍的に洗練を見せ、作品《MEISAI―27》（油彩・カンヴァス）は、今年（2023年）の「第7回青木繁記念大賞ビエンナーレ」において最高賞の大賞を受賞しています。

現在は伊万里市に居住し、佐賀県立伊万里特別支援学校での教諭として、生徒を教育しつつも自身の作品づくりを精力的に行っており、今後更なる活躍が期待され、佐賀銀行文化財団新人賞に十分値するところです。

4. 米村 太一 様

(制作風景)



《MEISAI-27》

2023年 油彩・カンヴァス
第7回青木繁記念大賞ビエンナーレ 大賞



《只今、刻の狭間にて》
2012年 油彩・カンヴァス



《より深い方へ》
2016年 油彩・カンヴァス



《静謐な紡ぎ》
2020年 油彩・カンヴァス



《陽ざし》
2018年 油彩・カンヴァス



《狭間にて》
2018年 油彩・カンヴァス



《刻の流れ》
2018年 油彩・カンヴァス

「MEISAI」シリーズ



《MEISAI-06》

2021年 油彩・カンヴァス

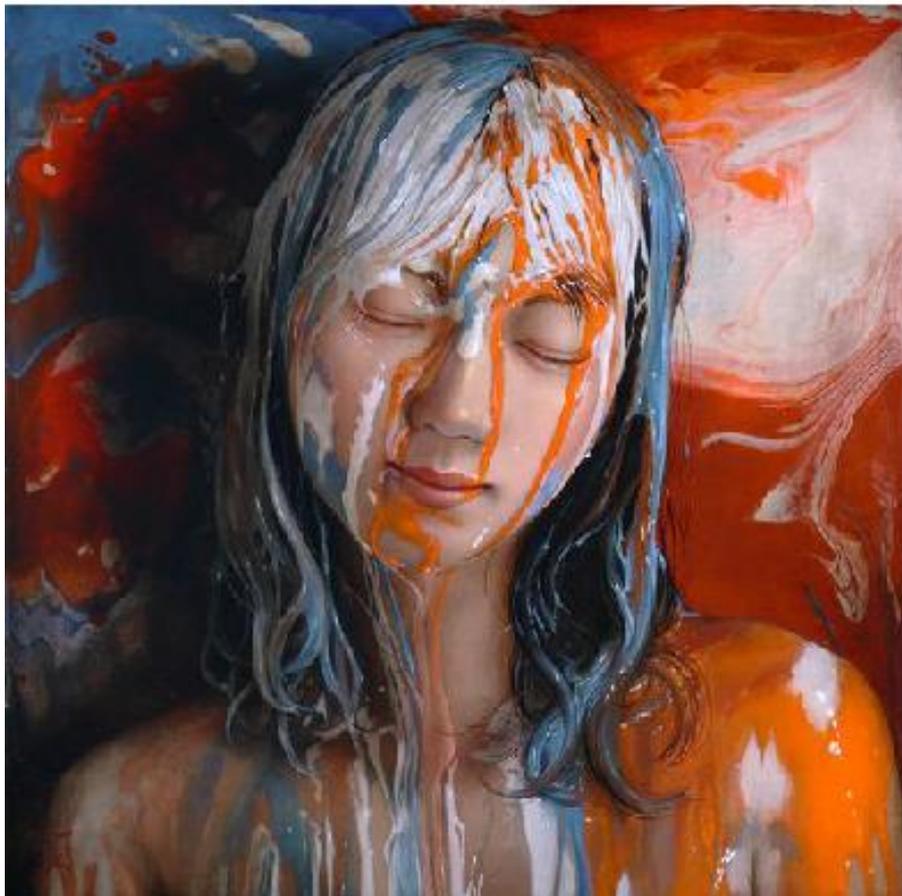


《MEISAI-10》

2021年 油彩・カンヴァス



《MEISAI-09》
2021年 油彩・カンヴァス



《MEISAI-02》
2020年 油彩・カンヴァス